ペスタロッチー教育賞 受賞者紹介

特定非営利活動法人 東京シューレ 理事長 奥地圭子（おくち けいこ）氏

1941年東京に生まれる。父の郷里島県三原市に移り、1963年に広浜国立大学を卒業、校で教え子どもに横。1985年に22年間の りて「東学習の場を保障するた校拒否とシューレ」を開設。なざしを ばれ、治療・矯正の闘う最前って見られていた。過ごせるに立ち続ける。不登をつくり場所を確保し、当事出版や講げた。不登校新聞の無理解活動を通して、社会ぐしてき明確な言葉にすること。2007年には不登校私立中学東京シューレ葛飾中 氏のそした活動に救われた い。不登への偏見はいまだ社来の努力よりひとびとの考えある。長らく小学校教員を めから不校を正しく理解でき年代末にが子が不登校となり、その原因あるとする当時の言から始ま。我が子に向けた愛だと責めれることには納得がしばらく小学校教師であること で苦しみ、また我が ることの精神科医師の渡辺なっていき過ぎ管理に対する自己防あることに知り、不登校問題がことに気

東京大空襲の後、
も時代を過ごす。
と広島の公立小学
を辞し、不登校の
居ビルの一角を借
はまだ不登校は登
象として偏見のま
、氏はこの偏見と
子どもが安心して
士のネットワーク
をはじめ、書籍の
かにある不登校へ
一つひとつ解きほ
どもを対象とする
を開校している
親の数は知れな
根深いが、氏の年
実に変わりつつ
いた奥地氏がはじ
た訳ではない。70
ども自身や育児に
違和感を抱くこと
十分であったから
なかったものの、
不登校児の親であ
苦しめることにも
出会い、いじめや
心として不登校が
の側の問題である

れていた親
984年に当事
立ち上げた
け入れられ
自らの教職
するのであ
の教職もま
けた期間で
。その都度
葉を向けら
おいて、決
として、母
分に活かす
ためにさま
た実践を開
終の棲家と
ることとな
学校におけ
創作平和劇
版されてい
も年度半ば
ってくれた
争や経済構
心して学べ
であっても
う る。彼は、
積極的に社
念により虐
に、そのこ
る。
のまなざし
、守るべき
裏付けられ
績に対し、
顕彰したい。

の会に参加し、活動を
者のネットワーク「登
そして、不登校児も
る居場所を求めている
経験を活かして、不登
る。
た、偏見と闘い、優れ
あった。結婚、三児の
「はずれ」の担任だ
れた氏は、実践におい
して引けを取らないこ
親として体感してきた
ことができるとの自信
まな研究会に出かけ、
し、教育雑誌『ひと』
決心して移住しながら
った広島滞在は11ヶ月
その期間の実践記録
指導とともに一冊のモ
る。学年初めに失望の
には氏の教育実践をよ
造から生み出された貧
る場所を提供した。社
教育が保障されること
このことを自らの教育
会に発信し続けた。奥
げられた子どもに学習
とにより社会通念の誤
暖かい。偏見に対す
のへの優しさから発
強さをともなってい
第22回ペスタロッチー

に つくら
内さ せて、1
院 開 る 会」を
展 え め られ 受
考 認 た 氏 は、
が し 場 を 開 設
感 の 22年 間
の 追 求 し 続
習 氏 親 の 介 認
氏 の 言 失 望 の
地 を 理 解 に
学 児 ら も 性
実 践、 た。 女 十
児 の 仕 事 に
その 磨 く
児ら 養 を
た教育者かどた。女性
出産・子き師授業
と保護者ての かされた。
て、また 導介 東京に戻
とを示し 紹で 江波小
ことを教 情が 活動や
もあった 新め 出ら
遠山啓に た 保護者 と な
において 収 援者 は戦
家庭の事 に 支 ー 安
に限られ た ッ 彼 ら が 児
は、ことけ る れた貧 変わり
ノグラフ 除き 大て 証明し、
言葉を向 ッ 社会の通
く理解す さ 大 と ま と も る。
ペスタ 除き 校 児 へ
児を預か 大て 挑 戦 は
会から排 ッ 動 す る の で
によって 動 す る 実践に
実践に 供 き な 不 為 努 力 と
地氏の活 て 校 児 へ 挑 戦 は 実 践 に 努 力 と 功
の場を提 の な 育 績 に 対 し、 高く
りを正し 敢 改 革
奥地氏の ま の
る氏の集 長 年 足
し、年来 増
る。氏の
教育賞を